

平成25年産 夏秋野菜の需給・価格の実績

<概要>

1. 気象

- ・6月から8月までは、平均気温が全国的に高く、東・西日本と沖縄・奄美ではかなり高かった。なお、全国気象官署のうち26地点で夏の平均気温の高い値を更新した。また、降水量は東日本太平洋側、沖縄・奄美では夏の降水量がかなり少なく、北日本日本海側、東日本、西日本太平洋側で日照時間が多かった。一方、東日本日本海側と北日本日本海側では降水量が多く、北日本日本海側、西日本では日照時間が平年並みであった。
- ・9月は、西日本を除いて平均気温が高く、東日本、西日本では日照時間がはかり多くかった。なお、上旬の秋雨前線、中旬の台風18号の影響により、広範囲で大雨となり東日本太平洋側と沖縄・奄美を除いて降水量が多かった。

2. 生産・供給

- ・夏秋キャベツは、7月は、群馬産及び岩手産の生育が回復したことにより入荷が増加した。8月以降は、少雨の影響による生育の停滞、降雨の影響による病害の発生等があったため、入荷が減少した。
- ・夏だいこんは、7月は、北海道産及び青森産の入荷が順調であった。8月以降は、降雨や台風等の影響から品質低下等があり、一時的に入荷の減少があったものの、入荷はおおむね順調であった。
- ・たまねぎは、8月までは佐賀産及び兵庫産の在庫が潤沢であった。9月は、主力産地である北海道産が小玉傾向となり、降雨の影響で収穫作業が滞っていたが本格的な出荷となり、入荷が増加した。10月は、北海道産の収穫が終了し小玉傾向となっている貯蔵物の出荷となり、入荷が減少した。
- ・秋にんじんは、8月は、産地の切り替え時期となったほか、北海道産が降雨の影響で入荷が減少し、9月以降は、北海道産の入荷が順調であった。
- ・夏はくさいは、7月及び8月は、高温、少雨の影響から生育の停滞がみられたものの、少雨の影響で少なかった前年を上回った。9月は、降雨等の影響があったものの、当月出荷分の作付面積を増加していたため、入荷が増加した。
- ・夏秋レタスは、長野産は少雨等の影響から小玉傾向となったものの、群馬産とともに入荷が順調であった。10月は、産地の切り替え時期となったため、長野産の入荷が減少し、茨城産が台風等の影響から品質低下等があり、入荷が減少した。

3. 需要・価格

- ・夏秋キャベツは、7月は、前年が安値であったこと、8月以降は、群馬産及び岩手産が生育の停滞や降雨の影響で入荷量が少なかったため、前年を上回る価格で推移した。
- ・夏だいこんは、北海道産及び青森産の入荷量がおおむね順調であったものの、高温の影響により消費が低下して安値となった前年を上回る価格で推移した。
- ・たまねぎは、8月中旬までは、佐賀産及び兵庫産が豊作で順調な出荷となったため、前年を大きく下回る価格で推移した。9月以降は、北海道産が主力産地となったが、生育期の低温の影響から小玉傾向となり、前年を上回る価格で推移した。
- ・秋にんじんは、8月は青森産の入荷量が減少し、前年を上回る価格となった。9月以降は、前年が平年を下回る安値であったことから、前年を上回る価格で推移した。
- ・夏はくさいは、長野産の入荷量はおおむね順調であったものの、前年は生育が順調であったため、9月に緊急需給調整の実施がされるほどの安値となった前年を上回る価格で推移した。
- ・夏秋レタスは、長野産及び群馬産の入荷量が順調であったものの、7月以降は、前年を上回る価格で推移した。10月は、産地の切り替え時期となり長野産及び茨城産の入荷が少なかったことから、引き続き、前年を上回る価格で推移した。

1. 平成25年産夏秋キャベツの需給・価格の実績

	前回の委員会(25.7.12)での見通し	実績(10月下旬時点)	備考
夏秋キャベツ (7～10月)	<ul style="list-style-type: none"> ・作付面積は、群馬は前年をやや下回り、長野は前年並み、北海道は前年をかなり下回る見込み。 ・生育状況は、低温・干ばつの影響で生育等の遅れが見られたものの、その後、生育は回復傾向となり、現在の生育は順調。 ・出荷量は、9月までは前年並み、10月は前年をかなり下回り、期間全体で前年並みで、平年をやや上回る見込み。 <ul style="list-style-type: none"> ・加工・業務用においては在庫が少ないことに加え、小玉傾向のため加工歩留まりが悪いことから、需要増が見込まれる。そうした中、加工業者等が契約数量を減らしており、市場調達が増える可能性がある。 ・カット野菜での使用頻度が上がっている中で、カット野菜用の品種の産地形成が課題となっている。 ・価格は、期間を通して、安値だった前年を上回る見込み。 	<p>(入荷量)</p> <p>7月は、群馬産及び岩手産は、一時、生産の遅れがあったものの生育が回復したため、前年に比べかなりの入荷増となった。8月は、群馬産が高温と少雨の影響から生育が停滞し、岩手産が降雨の影響から病害発生があったため、中下旬は、前年に比べかなり入荷減となった。9月は、群馬産及び岩手産が降雨の影響から入荷が減少し、前年並みとなったものの平年に比べかなり入荷減となった。10月は、群馬産が台風の影響で収穫作業が滞る時があったほか、出荷ピークを過ぎ減少傾向となっているため、前年に比べやや入荷減となった。</p> <p>期間全体としては、前年及び平年ともに並みとなった。 (7～10月の東京都中央卸売市場入荷量の対前年比:100)</p> <p>(価格)</p> <p>7月は、入荷が多かったものの、前月の高値の状況を受け、前年及び平年を大幅に上回った。8月中旬以降は、群馬産が高温と少雨の影響から生育が停滞したことや前年が安値であったことから、前年及び平年を大幅に上回った。10月は、群馬産の入荷が減少し、前年が安値であったため、前年及び平年を大幅に上回った。</p> <p>期間全体としては、前年及び平年ともに大幅に上回った。 (7～10月の東京都中央卸売市場卸売価格の対前年比:184)</p>	

注)「実績」については、「東京都および大阪府中央卸売市場における入荷量・価格の動向」等をもとに作成。

(参考1) 平成25年産夏秋キャベツの入荷量と卸売価格の前年・過去5年平均比(前年・過去5年平均をそれぞれ100とした場合の指数、東京都中央卸売市場)

入荷量対比

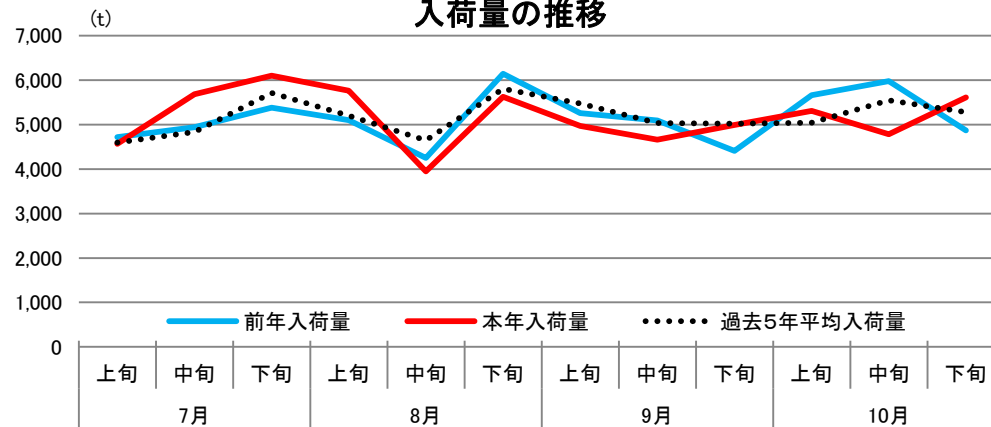
	7月			8月			9月			10月			期間計
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
前年比	97	115	113	113	93	92	95	92	113	94	80	115	100
	109			99			99			95			
過去5年平均比	99	117	107	111	85	97	91	93	99	105	86	106	100
	108			98			94			99			

卸売価格対比

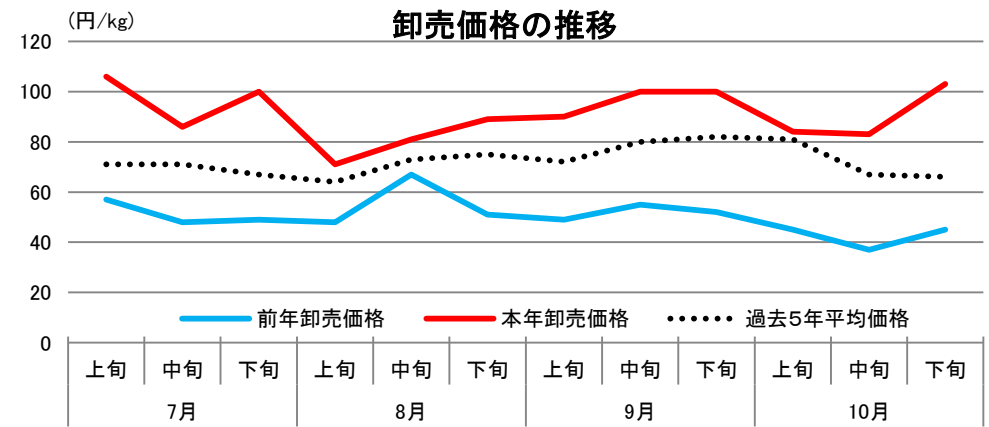
	7月			8月			9月			10月			期間計
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
前年比	186	179	204	148	121	175	184	182	192	187	224	229	184
	190			148			187			214			
過去5年平均比	149	121	149	111	111	119	125	125	122	104	124	156	126
	139			113			124			127			

(参考2) 平成25年産夏秋キャベツの入荷量・産地別入荷比率と卸売価格の推移(東京都中央卸売市場)

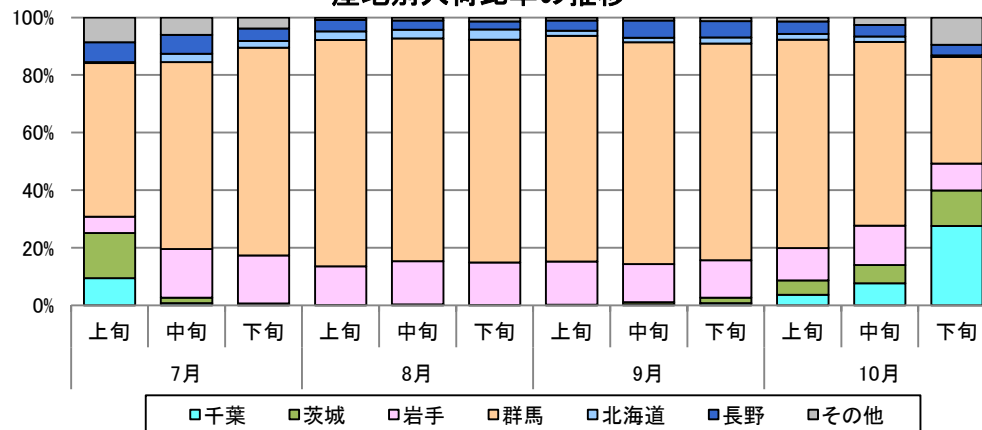
入荷量の推移



卸売価格の推移



産地別入荷比率の推移



2. 平成25年産夏だいこんの需給・価格の実績

	前回の委員会(25.7.12)での見通し	実績(9月下旬時点)	備考
夏だいこん (7～9月)	<ul style="list-style-type: none"> ・作付面積は、北海道は近年の価格低迷から前年をやや下回り、青森及び岐阜は前年並みの見込み。 ・生育状況は、北海道は、低温・干ばつ等の影響から遅れていた生育が回復基調となったものの、平年よりも1週間程度の遅れが見られる。青森及び岐阜は、低温による播種の遅れがあったものの、その後の好天により、平年並みの生育となっている。 ・出荷量は、7月は前年をやや下回り、8月以降は前年並みとなり、期間全体では前年及び平年並みになる見込み。 ・需要が減少しているため、需要拡大のために新たなレシピの提案が必要となっている。 ・加工・業務用においては、サラダ向けの切りだいこんの利用が増加している。 ・作付面積が減少し、干ばつで生育が遅れており、契約取引がしばらく状況となっていることから、市場調達が増える可能性がある。また、夏場の高温障害に注視が必要と考えられる。 ・価格は、7月は前年を上回り、8月及び9月は前年並みになる見込み。 	<p>(入荷量)</p> <p>7月は、北海道産及び青森産の入荷が順調となったため、前年に比べやや入荷増となった。8月は、北海道産が降雨の影響による品質低下、青森産が高温等の影響により、前年に比べやや入荷減となった。9月は、上中旬に北海道産に降雨や台風等の影響から出荷の遅れ等があったものの、下旬には回復したため、月全体では、高温の影響から少なかった前年に比べ、やや入荷増となった。</p> <p>期間全体としては、前年並みとなり、平年をやや下回った。 (7～9月の東京都中央卸売市場入荷量の対前年比:101)</p> <p>(価格)</p> <p>7月は、入荷が多かったものの、6月下旬の入荷量が少なかった状況を受け、前年を大幅に上回った。8月は、入荷がやや減少したことに加え、高温の影響により消費が低下した前年が安値であったことから、前年を大幅に上回った。9月は、中旬に天候の影響から入荷がかなり減少し不安定な入荷となったこともあり、前年及び平年を大幅に上回った。</p> <p>期間全体としては、前年及び平年ともに大幅に上回った。 (7～9月の東京都中央卸売市場卸売価格の対前年比:139)</p>	

注)「実績」については、「東京都および大阪府中央卸売市場における入荷量・価格の動向」等をもとに作成。

(参考1) 平成25年産夏だいこんの入荷量と卸売価格の前年・過去5年平均比 (前年・過去5年平均をそれぞれ100とした場合の指数、東京都中央卸売市場)

入荷量対比

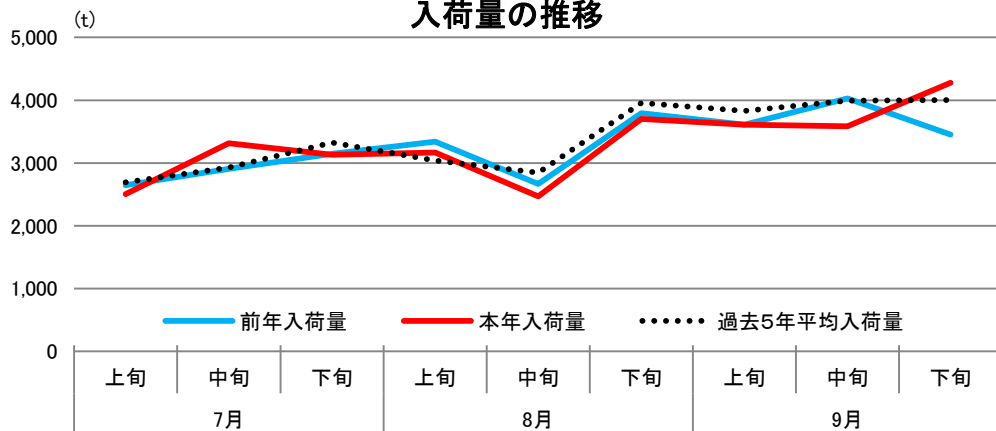
	7月			8月			9月			期間計
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
前年比	95	114	100	95	93	98	100	89	124	101
	103			95			103			
過去5年平均比	93	113	94	104	87	94	94	90	107	97
	100			95			97			

卸売価格対比

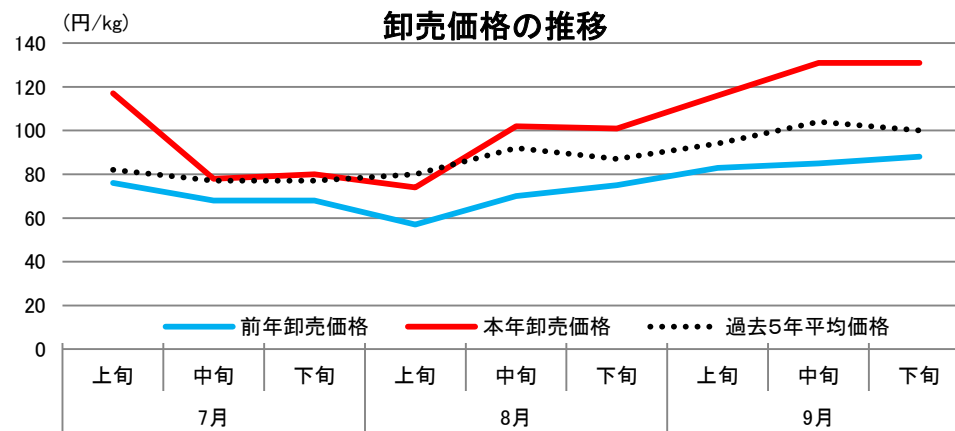
	7月			8月			9月			期間計
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
前年比	154	115	118	130	146	135	140	154	149	139
	129			135			148			
過去5年平均比	143	101	104	93	111	116	123	126	131	117
	114			107			127			

(参考2) 平成25年産夏だいこんの入荷量・産地別入荷比率と卸売価格の推移 (東京都中央卸売市場)

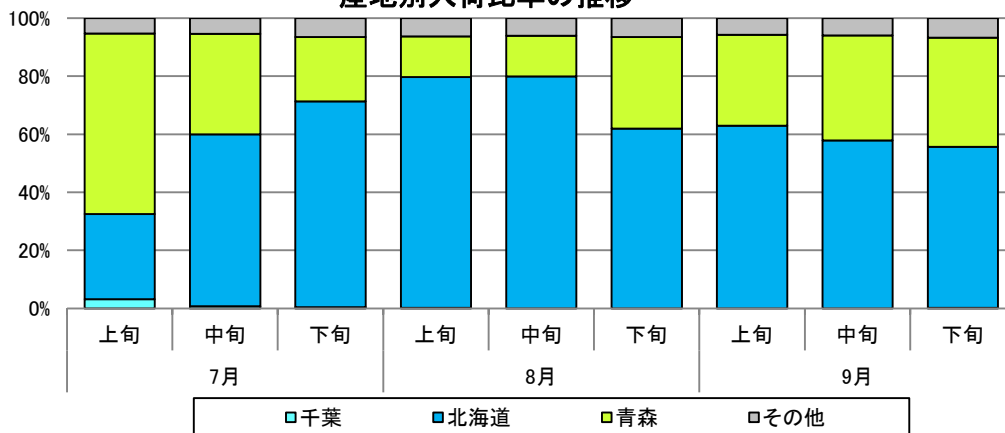
入荷量の推移



卸売価格の推移



産地別入荷比率の推移



3. 平成25年産たまねぎの需給・価格の実績

	前回の委員会(25.7.12)での見通し	実績(10月下旬時点)	備考
たまねぎ (7～10月)	<ul style="list-style-type: none"> ・作付面積は、北海道、佐賀、兵庫ともに前年並みの見込み。 ・生育状況は、北海道は降雨・低温により定植の遅れがあったが、その後の生育は、1週間程度の遅れが見られるものの回復が見込まれる。 ・出荷量は、府県産の在庫が潤沢であることから、7月及び8月は前年を上回り、9月は前年を下回り、10月は前年並みとなり、期間全体では前年をやや上回り、平年をかなり上回る見込み。 ・加工・業務用については、中国産(山東省)が豊作となり、安値での輸出が可能となっていることから、国産に回帰していたものが、再度中国産に回帰することが見込まれる。 ・価格は、9月までは前年を下回り、10月は前年並みの見込み。 	<p>(入荷量)</p> <p>7月及び8月は、佐賀産の在庫が潤沢となっているところに兵庫産の入荷が多かったため、佐賀産の不作で少なかった前年を大幅に上回る入荷となった。9月は、北海道産が少雨の影響により小玉傾向となったものの、下旬以降、収穫作業の遅れ等が回復し順調な入荷となったため、前年に比べやや入荷増となった。10月は、生育期の少雨の影響から小玉傾向となったことから、前年をやや下回る入荷となった。</p> <p>期間全体としては、前年をかなり上回り、平年をやや上回った。 (7～10月の東京都中央卸売市場入荷量の対前年比:108)</p> <p>(価格)</p> <p>7月及び8月は、佐賀産及び兵庫産が前年を大幅に上回る入荷となったため、前年を大幅に下回った。9月は、産地が北海道に切り替わり、本格的な出荷となったが、小玉傾向となったほか、一時、降雨の影響で収穫作業が滞ったこともあり、前年をやや上回った。10月は、収穫が終了し小玉傾向となっている貯蔵物の出荷となるため入荷が少なく、豊作傾向であった前年をやや上回った。</p> <p>期間全体としては、前年をやや下回り、平年をやや上回った。 (7～10月の東京都中央卸売市場卸売価格の対前年比:97)</p>	

注)「実績」については、「東京都および大阪市中央卸売市場における入荷量・価格の動向」等をもとに作成。

(参考1) 平成25年産たまねぎの入荷量と卸売価格の前年・過去5年平均比 (前年・過去5年平均をそれぞれ100とした場合の指数、東京都中央卸売市場)

入荷量対比

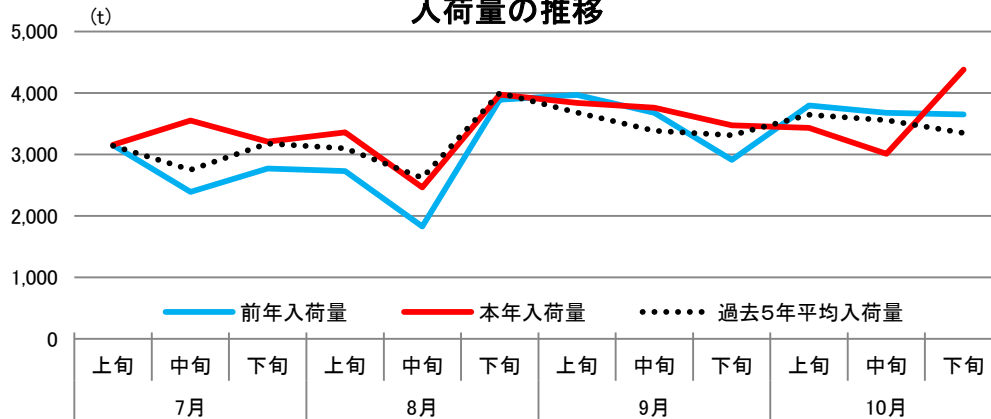
	7月			8月			9月			10月			期間計
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
前年比	100	148	116	123	135	102	97	102	119	90	82	120	108
	119			116			105			97			
過去5年平均比	101	129	101	108	94	99	104	111	105	94	85	131	105
	109			101			107			103			

卸売価格対比

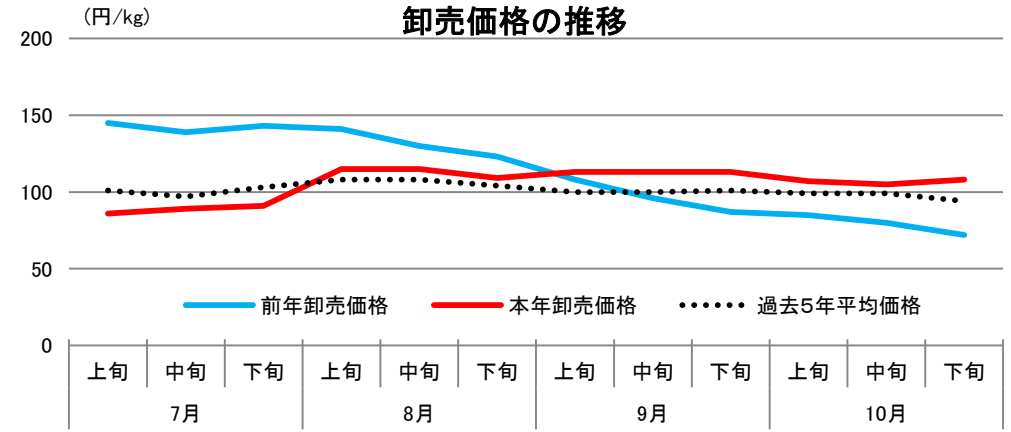
	7月			8月			9月			10月			期間計
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
前年比	59	64	64	82	88	89	105	118	130	126	131	150	97
	63			86			115			135			
過去5年平均比	85	92	88	106	106	105	113	113	112	108	106	115	105
	88			106			113			110			

(参考2) 平成25年産たまねぎの入荷量・産地別入荷比率と卸売価格の推移 (東京都中央卸売市場)

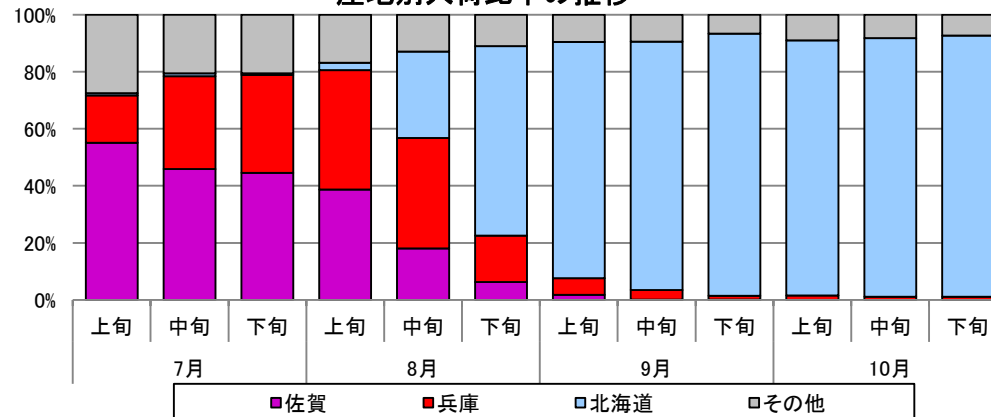
入荷量の推移



卸売価格の推移



産地別入荷比率の推移



4. 平成25年産秋にんじんの需給・価格の実績

	前回の委員会(25.7.12)での見通し	実績(10月下旬時点)	備考
秋にんじん (8～10月)	<ul style="list-style-type: none"> ・作付面積は、北海道は前年をやや下回り、青森は前年並みの見込み。 ・生育状況は、北海道は、低温・干ばつの影響があり、1週間程度の遅れが見られ、青森は、低温による播種の遅れがあったが、その後の好天により平年並みとなる見込み。 ・出荷量は、8月は前年をやや下回り、9月は前年をかなり上回り、10月は前年並みとなり、期間全体では前年並みで、平年をかなり上回る見込み。 ・他の食材と一緒に提供されることが多いため、新たなメニュー提案が必要となっている。 ・加工・業務用では、歩留まりの良い中国産に対する一定の需要が見込まれる。 ・価格は、8月は前年を上回り、9月及び10月は前年並みの見込み。 	<p>(入荷量)</p> <p>8月は、青森産から北海道産に産地が切り替わる時期となり、北海道産が降雨の影響により入荷が減少し、前年に比べかなり入荷減となった。9月は、北海道産で降雨の影響から収穫が遅れていたものが順調に入荷したため、前年に比べかなりの入荷増となった。10月は、北海道産が出荷の終盤を迎えた中で、前年並みの入荷となった。</p> <p>期間全体としては、前年をわずかに下回り、平年をやや上回った。</p> <p>(8～10月の東京都中央卸売市場入荷量の対前年比: 99)</p> <p>(価格)</p> <p>8月は、入荷が減少し、平年を大幅に下回る安値であった前年を大幅に上回った。9月は、入荷が増加したものの、前年が平年を大幅に下回る安値であったため、前年を大幅に上回った。10月は、入荷が前年並みとなったことからものの、平年を大幅に下回る安値であった前年を大幅に上回った。</p> <p>期間全体としては、前年を大幅に上回り、平年をやや上回った。</p> <p>(8～10月の東京都中央卸売市場卸売価格の対前年比: 131)</p>	

注)「実績」については、「東京都および大阪府中央卸売市場における入荷量・価格の動向」等をもとに作成。

(参考1) 平成25年産秋にんじんの入荷量と卸売価格の前年・過去5年平均比 (前年・過去5年平均をそれぞれ100とした場合の指数、東京都中央卸売市場)

入荷量対比

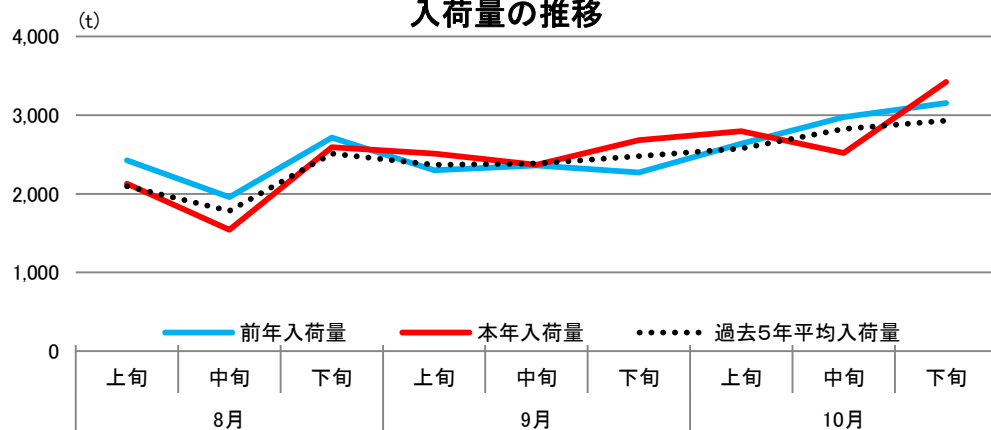
	8月			9月			10月			期間計
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
前年比	88	79	96	109	100	118	106	85	109	99
	88			109			100			
過去5年平均比	102	87	103	106	99	108	108	89	117	103
	98			105			105			

卸売価格対比

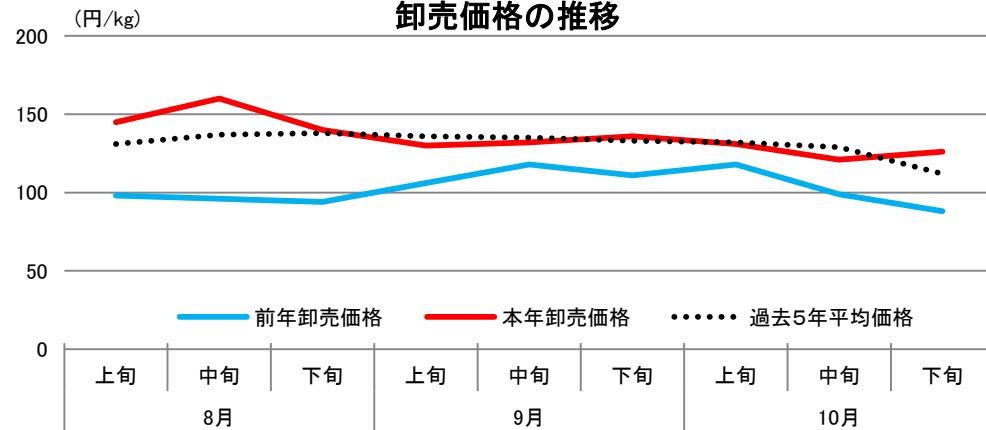
	8月			9月			10月			期間計
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
前年比	148	167	149	123	112	123	111	122	143	131
	153			119			125			
過去5年平均比	111	117	101	96	98	102	99	94	113	103
	108			99			102			

(参考2) 平成25年産秋にんじんの入荷量・産地別入荷比率と卸売価格の推移 (東京都中央卸売市場)

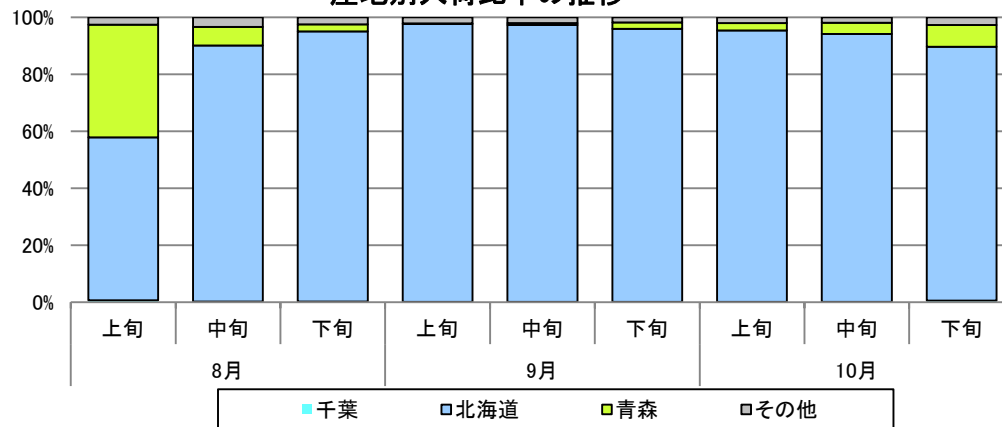
入荷量の推移



卸売価格の推移



産地別入荷比率の推移



5. 平成25年産夏はくさいの需給・価格の実績

	前回の委員会(25.7.12)での見通し	実績(9月下旬時点)	備考
<p>夏はくさい (7～9月)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・作付面積は、長野は前年をやや下回り、北海道は前年をかなり下回り、群馬は平年並みの見込み。 ・生育状況は、長野は、干ばつによる生育の遅れが見られたものの回復基調となる中で、最近の高温の影響が出始めている。北海道は、低温・干ばつの影響による生育の遅れが見られたが、好天により回復傾向となっている。群馬は、降雪・低温の影響による生育の遅れが見られたが、好天により生育が順調となった。 ・出荷量は、7月及び8月分を9月にシフトしたことから、7月は前年をかなり下回り、8月は前年をやや下回り、9月は前年をかなり上回り、期間全体では前年及び平年並みとなる見込み。 ・家庭での需要が少ないため、外食事業者に対して、はくさいを使用したサラダのメニュー提案をしている。 ・はくさいの需要が減少している中で、依然としてO157の影響が残っているほか、加工・業務用の契約数量も減少している。 ・価格は、7月及び8月は前年を上回り、9月は安値だった前年並みの見込み。 	<p>(入荷量)</p> <p>7月は、長野産が一時、生産の遅れがあったものの生育が回復したため、上旬は前年をかなり上回り、中旬以降、少雨の影響で小玉傾向となり、わずかに入荷減となったものの、前年に比べやや入荷増となった。8月は、長野産が高温と少雨の影響から生育が停滞したものの、少雨の影響で少なかった前年に比べわずかに入荷増となった。9月は、長野産が降雨等の影響により、生育の停滞がみられたものの9月出荷分の作付面積を増加していたため、前年に比べ大幅に入荷増となった。</p> <p>期間全体としては、前年をかなり上回り、平年をやや上回った。 (7～9月の東京都中央卸売市場入荷量の対前年比: 108)</p> <p>(価格)</p> <p>7月は、中旬から下旬にかけて入荷が減少したため、前年に比べ大幅に上回った。8月及び9月は入荷が増加したものの、前年は生育が順調で9月には緊急需給調整を実施するほどの安値であったため、前年に比べ大幅に上回った。</p> <p>期間全体としては、前年及び平年ともに大幅に上回った。 (7～9月の東京都中央卸売市場卸売価格の対前年比: 180)</p>	

注)「実績」については、「東京都および大阪府中央卸売市場における入荷量・価格の動向」等をもとに作成。

(参考1) 平成25年産夏はくさいの入荷量と卸売価格の前年・過去5年平均比 (前年・過去5年平均をそれぞれ100とした場合の指数、東京都中央卸売市場)

入荷量対比

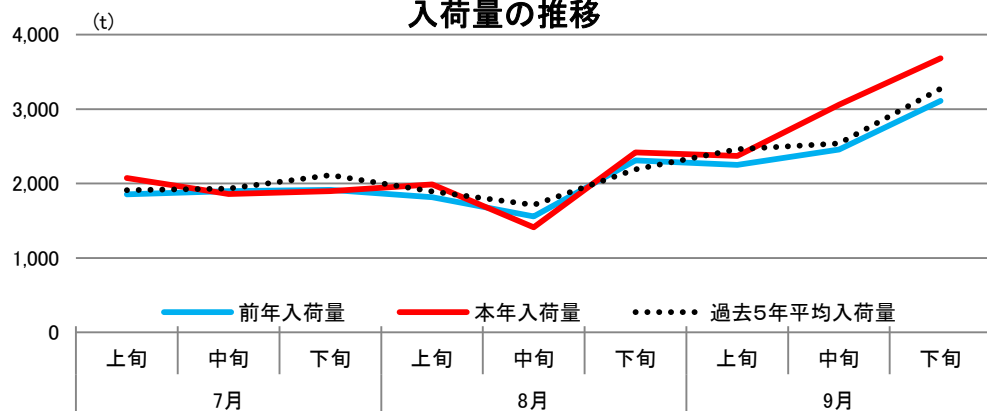
	7月			8月			9月			期間計
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
前年比	112	98	99	110	91	104	105	125	118	108
	103			102			117			
過去5年平均比	109	96	90	105	82	110	96	120	113	104
	98			100			110			

卸売価格対比

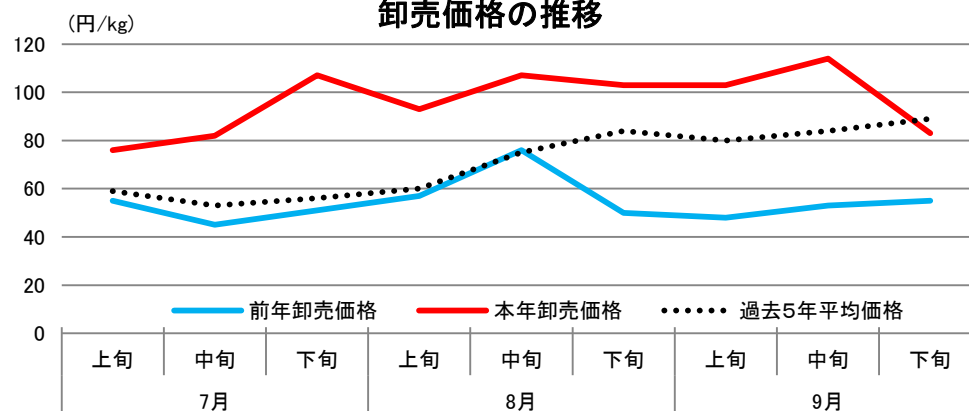
	7月			8月			9月			期間計
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
前年比	138	182	210	163	141	206	215	215	151	180
	176			171			190			
過去5年平均比	129	155	191	155	143	123	129	136	93	132
	157			136			116			

(参考2) 平成25年産夏はくさいの入荷量・産地別入荷比率と卸売価格の推移 (東京都中央卸売市場)

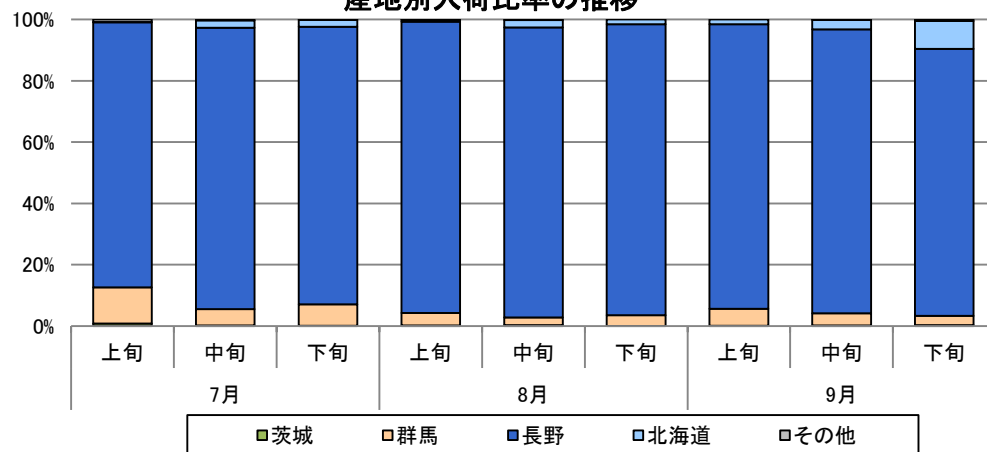
入荷量の推移



卸売価格の推移



産地別入荷比率の推移



6. 平成25年産夏秋レタスの需給・価格見通しと実績の対比

	前回の委員会(25.7.12)での見通し	実績(10月下旬時点)	備考
夏秋レタス (6～10月)	<ul style="list-style-type: none"> ・作付面積は、長野は前年をやや上回り、群馬及び茨城は前年並みの見込み。 ・生育状況は、長野は、干ばつの影響による生育の遅れがあったが、その後の降雨により増加傾向となったものの、最近の高温による影響から出荷量の伸び悩みが見られる。群馬は、生育の遅れが見られたものの、作柄は良好となっている。 ・出荷量は、7月から9月までは前年をやや下回り、10月は前年並みで、期間全体では前年並みで、平年をやや上回る見込み。 ・家計消費では、高値のため販売しにくい一方、加工・業務用では、サラダうどん等の需要が増加している。 ・加工・業務用向けに安定した出荷が困難なため、一部の実需者において、契約産地を一時的に休ませるための輸入を検討中。 ・価格は、7月から9月までは供給が減少するため前年を上回り、10月は前年並みの見込み。 	<p>(入荷量)</p> <p>6月は、長野産は4月下旬の降雪等の影響から、上旬までは少なかったが、中旬以降は回復したこと、また、群馬産は生育が順調で台風により前年が少なかったこともあり、前年に比べかなり入荷増となった。7月は、長野産は少雨の影響で生育が小玉傾向となったものの、中旬以降、適雨により生育が回復し、前年並みの入荷となった。8月は、長野産及び群馬産の生育が7月に引き続き順調となり、前年と比べやや入荷増となった。9月は、長野産は少雨の影響により小玉傾向となったものの、9月出荷分の作付面積を増加していたため、前年並みの入荷となった。産地が切り替わる10月は、茨城産が台風や降雨の影響で品質の低下、長野産の出荷のピークが過ぎ、減少傾向となったこと等から、入荷量が多かった前年に比べかなり入荷減となった。</p> <p>期間全体としては、前年並みとなり、平年をかなり上回った。 (6～10月の東京都中央卸売市場入荷量の対前年比: 100)</p> <p>(価格)</p> <p>6月は、入荷が増加したため、前年を大幅に下回った。7月は、少雨等の影響で上旬に入荷が減少し、その後、回復したものの、前年を大幅に上回った。8月及び9月は、入荷が増加したものの、前年が平年を大幅に下回る安値であったため、平年を下回るも前年を大幅に上回った。10月は、入荷が減少したため、平年を大幅に下回る安値であった前年を大幅に上回った。</p> <p>期間全体としては、前年を大幅に上回り、平年をやや上回った。 (6～10月の東京都中央卸売市場卸売価格の対前年比: 132)</p>	

注)「実績」については、「東京都および大阪府中央卸売市場における入荷量・価格の動向」等をもとに作成。

(参考1) 平成25年産夏秋レタスの入荷量と卸売価格の前年・過去5年平均比 (前年・過去5年平均をそれぞれ100とした場合の指数、東京都中央卸売市場)

		入荷量対比															期間計
		6月			7月			8月			9月			10月			
前年比	過去5年平均比	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	100
				95	131	103	89	115	98	107	108	115	105	96	99	89	90
		109			100			104			100			90			109
		107	116	110	102	118	97	116	116	126	124	115	105	110	93	94	109
		111			106			118			114			98			109

		卸売価格対比															期間計
		6月			7月			8月			9月			10月			
前年比	過去5年平均比	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	132
				102	85	70	200	193	134	113	109	145	114	173	184	150	120
		84			174			117			154			139			132
		80	82	91	194	184	131	93	73	76	67	105	123	91	110	150	105
		85			168			80			96			115			105

(参考2) 平成25年産夏秋レタスの入荷量・産地別入荷比率と卸売価格の推移 (東京都中央卸売市場)

